

健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。また、大学全体として、全学部生が共通して履修する必修科目、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」においては、少人数教育を実践しています。セミナー担当教員は、各学部・学科・コースのCPに基づく学修指導の他、学生生活全般にわたる指導を行っています。これにより学生は、社会人として求められる常識や教養等の汎用的能力と、各自の専攻分野や関心領域に関わる幅広い知識をバランス良く身につけることができます。この「セミナー」は、キャリア教育の一環として、学生の様々な相談にも応じています。

【教育方法】

学生が社会人となったときに必要となる幅広い教養や知識、人との関わりの中で求められるマナーやコミュニケーション能力を身につけるための指導を、4年間を通じ「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」等において継続的に行っています。また、救急救命士やトレーナー及び教職の資格取得や公務員対策のための講座において、入門レベルから中級レベルまでのいくつかのクラスを設け、十分な時間をかけて指導の充実を図っています。

【教育の特色ある工夫】

救急救命士コース

救急救命研究3年次配当のこの通年授業は、救急車同乗実習、臨床実習を前提に以下のことを実施している。

- ・前期授業期間中は、消防OBの教員が、実際に現場であった事例の概要を示し、学生は救急隊として何を考えて、どのように行動するかを少人数グループで討論する、いわゆる机上訓練を毎週行っている。教科書に記載されていない現場特有の内容の判断が求められることもあり、より実践的な内容となっている。
- ・後期授業期間中は、学生自身が脳卒中や外傷などの救急事案のシナリオを考え、そのシナリオに沿って実際の救急活動ができるかどうかを競う学内想定訓練協議会を実施している。これは前期授業よりさらに現場に近い実践的な内容で、さらに競技会の運営自体も学生にゆだねている。

トレーナー・スポーツコース

- ・ 体育・スポーツ現場で活躍する知識と実践能力を備えた人材の養成に向けたカリキュラムを用意しています。
- ・ 1年次では、スポーツ指導者に必要な専門科目を基礎から学びながら幅広い教養を身につけます。
- ・ 2年次では、学内の充実した設備での実習により理論と実践を融合させます。
- ・ 3年次以降では、スポーツ現場や教育実習における実践的な指導力を身につけます。そして、運動・スポーツの専門家として巣立つために、アスレティックトレーナーや中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）などの資格取得に向けた学修ならびにキャリア教育の仕上げを行います。

アスリートコース

- ・ 第一線で活躍する競技者や指導者の養成に向けたカリキュラムを用意しています。
- ・ 1、2年次では、各運動部活動を通じて技術と体力の向上を図り、優秀な競技者を目指します。またスポーツを科学するために必要な基礎科目を学びます。
- ・ 3年次以降では、コーチングなどの実践的な指導方法を身につけます。
- ・ そして、スポーツ・運動の専門家として巣立つために、中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）などの資格取得に向けた学修を行います。